

平成 16 年 9 月 5 日 (日) 13 : 30 ~ 15 : 30

会場 : 上尾市文化センター 201 号室

1. 開会

2. 荒川上流河川事務所長挨拶

【高橋所長】

午前中は足場の悪い中、多くの方にご参加いただきましてありがとうございました。7月1日付けで荒川上流河川事務所の所長に拝命しました高橋です。よろしくお願いいいたします。

前任地は秋田県の湯沢河川国道事務所で、国道 13 号の改修と雄物川の河川改修を担当していました。雄物川は荒川に比べると地方の河川で、川も流域も自然が豊かなところでした。川の自然というものは川以外のところが都市化しているから大切なのだと思っており、雄物川については自然に対する住民の要望が大きくなるのではないかと感じていました。しかし、そうではなく、周辺の自然が豊かであろうとなかろうと川というものは全く別の大切な生態系があり、流域の自然の豊かな地域でも河川空間の期待感が高いのだと改めて感じました。

太郎右衛門地区は高水敷の乾燥化が大変大きな問題になっています。雄物川も大変自然が豊かだと思っておりましたが、やはり陸化ということで高水敷の乾燥化が進み、通常陸上に生えるような植物が卓越し砂利河原が減少しており、地域の人からは砂利河原の再生の要望が強くありました。このような川の変化は、ミクロの変化だと思っていたのですが、ランドサットの空からの映像を見ると、水色または白だと思っていた川筋が緑色になっており、宇宙から見ても川が大きく変わっていると感じ、川の自然再生は大事なのだと、そのとき改めて思いました。

今日は午前中現地に行きまして、荒川は非常に人工的な川だと思いました。川幅が広く、広い空間があるということは自然が豊かなことだと思っておりましたが、非常に人工的な川だという印象を受けました。逆に、自然再生というテーマに対しては、思い切ったことをして良いのかなと感じました。河川空間の機能については様々な要望や期待があるわけですから、バランスのとれた川づくりが大切だと思います。より多くの方の意見をいただいて調整をしていくことが良い川づくりになると思います。私も河川管理者ということでこの場に参加させていただき、その立場からいろいろな意見を申し上げさせて頂きたいと思いますので、是非皆様にも忌憚のない意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会会長挨拶

【浅枝会長】

皆さん、事業に対して様々なイメージを持たれていたと思いますが、本日朝、現地を一緒に見て、会話をかわすと、やはりここはこうではない、こうなのではないか、という新しい意見を持った人がたくさんいらっしゃるのではないかと思います。本日のテーマは当面の整備メニューであります、まさに今日見ていただいたことに関する議論が中心になると思います。前回まではイメージに持っていたことが、今回は具体的に議論ができるのではないかと思います。よろしくお願いします。

4. 議事

(1) 第6回協議会の結果について

(事務局説明) [資料 - 2 説明](#)

(2) 当面の整備メニューの設計の考え方について

(事務局説明) [資料 - 3 説明](#)

(3) 当面のモニタリングについて

(事務局説明) [資料 - 3 説明](#)

<休憩>

(4) 意見交換

[浅枝会長]

当面の整備メニューの考え方が幾つかありました。早い時期から着手する予定であるという内容のものです。まずは、朝、現地をご覧いただいたときにあった広い牧草地の、雨水の集水路の話をしてしましよう。集水路の計画案を立てていただいています。

[出村委員]

Q: 牧草地(資料3、P4)へ、どの程度の雨が降ったときに、どの程度の雨が水路に入るのでしょうか。何百ミリも雨が降らなくては水路に水が入らないのではないかと思います。また、U字溝(資料3、P5)を水路に使った理由を教えてください。水が浸透しないようにという理由からだとは思いますが、コンクリート水路が環境には悪影響を及ぼすのではないのでしょうか、他にも水路を作る方法があるのではないかと思います。

【事務局】

A: 集水エリアへの雨量と、それに対する集水量はまだ整理できていません。ご指

摘のとおり、ある程度以上の雨量の対応になるかもしれません。上池周辺の雨水を利用したいというメニューを考えており、改良の余地はあるかもしれません。U字溝については集水した水を無駄なく利用するといった理由ですが、石張りの部分も含めて、形状などについては協議会で議論していきたいと思います。まずは素掘りの水路を掘るなどし、モニタリングを進める方法もあると思います。当面の進め方などご意見を頂きたいと思います。

【浅枝会長】

雨量と集水量との関係は、もう少し詰めても良いかと思えます。

【三島委員】

雨量と集水量の関係は、もし雨量の1%が流れ込んだとしても雨が止んでしばらくすればカラカラになってしまう、それだけでも水が上池に入れば良いという考えには同感です。U字溝についても出村委員と同感で、雨がなくなると虫殺しの溝になってしまい、少なくともV字型にする必要はあるかもしれません。個人的には、周辺に草が生えても構わないという意見を持っています。

【浅枝会長】

これに関しては、もう少し検討した方が良いと思えます。

【木内委員】

Q：エコトーンの試験掘削（資料3、P10）について、ケースの作り方にストーリーを持たせ、何を知りたいのかということを確認しなければ、このままモニタリングを行っても分かることが少ないと思えます。

エコトーンは湖沼の水位変動帯であり、この場合は何年かに一回大水になったとき、非常に短時間で陸地化してしまうところなので、例えば棚田状に試験してみるなどはどうでしょうか。エキサイゼリの生えやすい現状を再現してみるなど、エコトーンの作り方の基本的なところを想定しないと、ただの斜面になってしまいます。実験条件、想定条件を詰めた方が実のある検証が出来ると思えます。

【事務局】

A：もちろん、試験掘削を行う時の条件の整理は必要です。何を調べるのかといった、結果に結びつくような条件の整理をきちんと行う予定でいます。

【行森委員】

Q：エコトーンの実験は、地盤が水際に対して斜めでは結果が出しにくいと思えます。今後、このような水際を作るときに水面から何センチのところを広くとれば保全できるのかといったことを明らかにするために、このような試験はあります。大体、水面から30cm程度をみて、前後10センチあるいは15センチ刻みに広い棚田状を作り検証し、今後こういった水際の自然再生に水面から何センチの部分を広く

作りましょうという結論が見えるように、実験を組み立てると良いと思います。

【浅枝会長】

A：水位も洪水が入ったときから時間が経つにつれてどんどん下がるのですが、逆にそれを上手く利用する形で柵状にすると冠水頻度などが分かると思います。

【鈴木委員】

Q：地下水位の現状を見ると、雨水の集水路には、地下水の方が入りやすいのではないのでしょうか。遮水壁を取って地下水を利用するものと、雨水を利用するものと横断的に100mずつ試験的に設け、幾つか例を試し、結果を見た方が良いのではないかと思います。

【浅枝会長】

A：集水路に関しては様々な問題がありそうですから、次回再提案していただくということにしたいと思います。集水路事態に大きな集水能力があるとは思えませんので、場合によっては別の利用方法を考えるということも考えられます。

【恵委員】

再提案をしていただく際に、モニタリングを行う時の水深別のゾーンの設け方や、水路のパターンの組み合わせなどを提案していただけると具体的なイメージができると思います。

【木ノ内委員】

Q：集水路の設計（資料3、P4）など、ずいぶん大きく川の近くをいじるのだなと率直な印象として思いました。U字溝はゴミが入るなどして、実際は水がすべて川に入るわけではないと思います。水が溜まった状態で蒸発してしまうのではないかと思いますので、管理が大変だと思います。遮水シートを使った構造についても疑問に思います。暗渠排水の方が良いのではないのでしょうか。

【事務局】

A：最終的に構造物を作るとはいつでもできます。数年かかるのかもしれませんが、まずは素掘り水路でいくつかのケースを試してみて、本当に水が溜まって流れていくのかをモニタリングしながら見ていくという考え方で、次回提案させていただきたいと思います。

【浅枝会長】

A：この事業では、できるだけモニタリングを行いながら試行錯誤してやりましょう、という考え方があるのですから、初めはできるだけ簡易な形で行いましょう。

【山本委員】

Q：集水に苦労しているということはよく分かります。モトクロス場の跡地は、一

昨年前は水が溜まりカモなどが1000羽ほど集まり、非常に良い湖でした。ここを何とか活かさないでしょうか。今、モトクロス場に水は入っていませんが、あそこに水を集めるという発想はできないでしょうか。

【事務局】

A：確かに、今、モトクロス場跡地はわりとよい環境になっています。今、集水ルートは上池の水確保ということで、上池に直接水を落とすようになっていますが、現状を考慮してモトクロス場跡地を利用し、水を落とし上池とつなげるということも考えられます。

【大森委員】

Q：雨水から水を引き込むことは基本的に難しいのではないかと思います。乾燥している土地に水を引き込むためには市野川からの水利用も考えられるのではないのでしょうか。雨水頼りは何十年もやってきて、現在この状態です。今、この計画の岐路にさしかかっていますから、水を確保するという面では考えた方が良くと思います。

【浅枝会長】

A：市野川の件についてはすぐに解決できない話ですから、今後、中・長期的な計画の中で進めたらどうかと思います。今日、議論する内容は1・2年の内にしなくてはならない整備について進めていこうと思います。

【大森委員】

Q：このスケジュールで進めていこうと決定する前に、フィードバックして、大半の人がこれで良いと思えるような計画を希望します。資料1のスケジュール表の中に、平成17年度以降に計画の見直しとありますが、この計画の見直しをもっとはやい段階で取り入れていただければ良いのではないかと思います。

【事務局】

A：水確保の施策の中で、本川からの導水や雨水の集水が本当に難しいというのであれば、メニューを見直す必要があると思います。市野川には水質問題があり、その課題があったことで長期的な計画になっていると思います。ただ、市野川からの導水がなければ上池がダメだということになれば本気で取り組む必要があると思います。

【大森委員】

Q：市野川の水質は、現状の上・中・下池の水質とどこまで差があるのか疑問に思います。一概に汚いとは言い切れないと思います。

【高橋所長】

A：取水の問題が大きく、根本のような気がします。これは河川管理者の負う部分

が大きく、私たちがきちんと整理した形で見通し等を説明しなければならないと思います。今回、天水を取るという方法は、実験的な蓄積の一つにするという意味合いで割り切りってはどうでしょうか。これによって上池が維持されるということはどなたも考えていないと思います。先程議論にありましたU字溝についても、実験的に集水量が分かるだけでも非常に意味があることで、試験という形で第一段階を行ってみてはどうかと思います。水を取りたいあまりに本末転倒的な三面張り水路を作りかねません。集水の方法は、1つの実験という位置付けで考えて頂きたいと思います。

【浅枝会長】

A：何か抜本的な水を確保する対策がない限り、上池にずっと水を溜めるということとは難しく、河川全体のかなり大きなことから考えていかなくはなりません。このプロジェクトは幸か不幸かトライアンドエラーで行きましょう、というモニタリングの方針をとっていますから、今出来ることから始めて行き、その間に水確保の抜本的なことも考えていくという方針で進めて行きましょう。今すぐに、最初予想していた状況が満たされるかということはかなり難しいと思います。しかし、それはそれで一つの自然の姿だと、水が予想していた量の100%なければいけないということはありません。もちろん、将来そのようになれば良いと思います。

【柴田委員】

Q：右岸にある田の水を利用できないでしょうか。肥料が流れ込む問題もありますが、水を確保するだけであればかなりの量を確保できると思いますが、どうでしょうか。

【事務局】

A：農業用水の現状をよく把握していません。あの地域の田は冬場の水利権を持っていないのが通常だと思います。冬場にも水利権があるのだとすれば農業者と連携を取ることも可能だと思いますので、確認しておきます。

【堂本委員】

ワンドとは流水域に接した止水域のことをワンドと言います。当面この場所は流水環境になる予定ではないので、ワンドという表現から湿地帯に変えた方が誤解がなく、良いと思います。

【浅枝会長】

そうですね、これはワンドではなくて棚のような湿地帯ということにしましょう。モニタリングの方でも沈水植物を期待していながらモニタリングの項目に入っていないということもあり、おそらくここはワンドではなく、植物帯を期待しているのでしょう。

【菅間委員】

Q：エコトーン帯の創出予定地にハリエンジュが成長してしまっていますが、そういった外来種は工事のときに抜根する必要があるのではないかと思います。大きければ切らないという様な事があるのでしょうか。

【小川委員】

A：大きさの問題ではなく、こだわりを持って切った方が良いのではないかと思います。

【浅枝会長】

モニタリングの議論に移ろうと思います。基本的な考え方や、モニタリングの専門委員会を作ることなど含めてお願いします。

【今野委員】

Q：狭い範囲や閉鎖型の地域で行われているものであれば、この内容で十分だと思うのですが、我々が取り組もうとしている地域は人口の密集地に大変近いところで、かつ大規模に行おうとしている自然再生であるということを考えると、人間の影響を排除することができないだろうと思います。全国的にも例が少なく、手法的なものは確立されていないと思いますが、水が増えれば釣り人が来る、自然が増えれば自然愛好家 comes、アクセスが良くなればゴミを捨てに来るといった、人間の影響を早期の段階からモニタリングをしていく必要があると思います。農業排水を利用するとすれば農薬や、エアポートからの排水の問題を考えなくてはならないと思います。ここに水を引いてくるとすれば近隣農家の農業用水の確保の問題があると思います。自然科学的なモニタリングだけではなくて人間の影響を考えたモニタリングをしていかなければならないと思います。

【恵委員】

A：その通りだと思います。魅力のある場所を作ると人が寄ってくるということを踏まえて、時間軸上の予測を立てる必要があると思います。

【事務局】

A：人間の影響の評価方法は勉強していかなければいけないと思います。東北でゴミの散らかり方と人の利用との関係を整理した例があります。それらを勉強して検討する必要があると思います。

我々だけでは難しいので、委員会の方々に問診型のモニタリングなどを通じて、協力していただければと思います。

【木内委員】

Q：学者等が行うモニタリングは、内容が専門的すぎて理解しにくい部分があります。私たちは情報公開型で市民も参加していくと事業を行っているので、小・中学

校を含めた参加型のモニタリングを行い、専門委員会は地元の学校に提案したりするなどの役割をする方が良いと思います。長い目で見ればそういう子供たちが地域の指導者になっていくと思います。専門委員会は、学術的に専門というよりはシンプルな内容を議論していく方が良いと思います。

【事務局】

A：専門委員会ではある程度専門家の人が集まり、モニタリングの評価を行っていくのですから、今の内容はモニタリングの方法の中で検討していけるとと思います。事務局として必要な専門委員会の種類、専門委員会の規模、選出方法を悩んでいますので意見をお聞きしたいと思います。

【山本委員】

Q：自然環境学習について、植物や動物の名前を教えるだけではなく、子供たちが主体的に遊び、取り組めるような、自分たちからプログラムを作るような学習方法が良いのではないのでしょうか。専門委員会はその導入を行うという役割が良いと思います。

【事務局】

A：方法や必要な施設など、そのような内容は自然環境学習の専門委員会の中で議論してほしいのです。次回、専門委員会の提案を行いたいので、規模、選出方法に対する意見を聞きたいのです。

【菅間委員】

Q：専門委員を選ぶにあたって専門性が必要ですから、動植物や生態のことをよくご存知の方、教育に携わっている人にも入ってほしいと思います。また、文字として記録に残ってこなかった50年60年間を知っている、私たちとわりと近い世代の生活文化や知恵などを取り入れられるようなメンバーをぜひ加えてほしいと思います。

【事務局】

A：専門委員会の中で地元の人を呼んで話を聞くという方法もできるとと思います。

【菅間委員】

Q：そうではなく、地域に密着してきた人に委員として入ってもらった方が良いでしょう。

【事務局】

A：協議会の設置要項に、専門委員会の委員は、協議会に参加する者から選出するということになっています。議事の進行に際し必要となる専門的知識を有する者の意見を聴取することが出来ることになっていますので、専門委員はあくまで協議会の委員から選び、その中に必要に応じてオブザーバーとして出席してもらい、毎回来て

もらうかもしれないですし、それは方法の中で選択できることかと思います。

【木内委員】

Q：実際に意見交換を行う場合は 20 人前後が良いと思います。実質的に毎回 15 ~ 20 人の人が出席できるよう、協議会のメンバーから自主的に参加していただける人で、地域に密着した、動植物の専門性や、教職者という観点から選んでいただいたらどうかと思います。

【浅枝会長】

Q：選び方は公募でよろしいでしょうか。

【弓座委員】

Q：まずは各委員会への参加希望を取るのが一番良いと思います。

【浅枝会長】

A：まずは希望を取り、人数が多すぎるということになるとと思いますので、その中から選出ということで良いでしょうか。他に専門委員会の提案はありませんか。

【堂本委員】

メンバーの件については今のような議論の内容で良いと思います。モニタリングの際の指標種の扱いについて、去年の全体構想で生物種を選びましたが、本日の資料内容を見るとそれに向けた指標種と必ずしも一致していないと思います。指標種について詰めた議論を行わなければ、去年選んだものとずれてくる恐れがあり、精査して議論し、再生目標を再度確認する必要があると思います。

【小川委員】

ヨシ原を再生するにあたっての指標となる生物種はヨシゴイではないかと思いますが、抜けています。また、クサガメでなくてイシガメなのではないか、どこに基準を置くのかということも、この選択については分かりません。もう一度きちんと精査する必要があると思います。指標種の中に富栄養化の問題が取り上げられていますが、三ツ又沼や江川の湿地再生でも非常に苦しむ問題です。水が蒸れへドロができることにより、カナムグラが湿地帯に入り込んでしまう場合があり、このような種も指標種に入れるべきであると思います。

【菅間委員】

Q：近隣の三ツ又沼や江川の現状が加味されていないのではないかと思います。もう一度検討しなければ指標生物にはならないと思います。

【浅枝会長】

A：指標生物に選択されているものについては、これから議論していかなければならないと思います。専門委員会の設立後、委員会の中で議論していくようにしたい

と思います。委員会を早く作らなくてはいけないと思いますので、次回、提案していただきたいと思います。

【行森委員】

Q：指標種の選択については、その通りで現場にあまり接していない人が決めた印象を受けます。資料3の27ページの表にモニタリングの主体が示されていますが、中心的な主体のない項目があります。また、ここではっきり言っておきたいのは、環境学習における生き物調べと、河川管理者がプロの調査者に委託して行う生物調査とは全くレベルの違うものです。その点をきちんと精査できるような専門委員会であってほしいと思います。そのメンバーを協議会委員の中から選ぶのだとすれば大勢になるでしょう。多くの人数で委員会ができないというのであれば、専門的知識を有する人が常に出席する必要があると思います。出てきた結果の正当性を精査していかないと、法律に基づいて発信されている自然再生事業として、レベルが維持できなくなってしまうと思います。

【浅枝会長】

A：学問的なレベルのものと、子供が入れるようなレベルのものと、二つのレベルを考えなくてはならないと思います。ここで考えられている内容は後者であり、もう少し学問的なレベルのものは別の形で考えていかなければ難しいと思います。様々なご意見をいただきたいと思いますので、アンケート用紙にご記入いただきたいと思います。

(5) まとめ

【浅枝会長】

今回は、次回協議会に対する宿題がかなり残ったと思います。しかし、基本的な宿題の方向性は示せたと思います。

【事務局】

今日の議論の確認は議事録等と併せて皆様にご連絡しようと思います。意見・質問票もお配りしています。専門委員会は自薦、他薦ということになると思いますが、また事務局の方からモニタリング専門委員会、自然環境学習専門委員会の2つについては合意できているのではないかと思います。その希望を聞くアンケート票を送らせていただきたいと思っています。自薦だけでなく、他薦もご記入いただければと思います。

【山本委員】

専門委員会に参加希望するにあたっては400字程度の意見を書くようにしたらどうでしょうか。

【事務局】

そういった意見も記入できるような様式でお送りしたいと思います。

現地植物調査会を9月末に行いたいと思います。次回、第8回協議会は10月末の日曜日になると思います。質問・意見票につきましてはアンケートをお送りしますので、それと併せて出していただければと思います。今回の議事要旨は早々にまとめ送らせていただきたいと思います。

浅枝先生、委員の皆様、本日は本当にお疲れ様でした。これをもちまして本日の協議会を終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。

5. 閉会